

# 能登半島地震による大規模地すべりの発生状況・原因調査

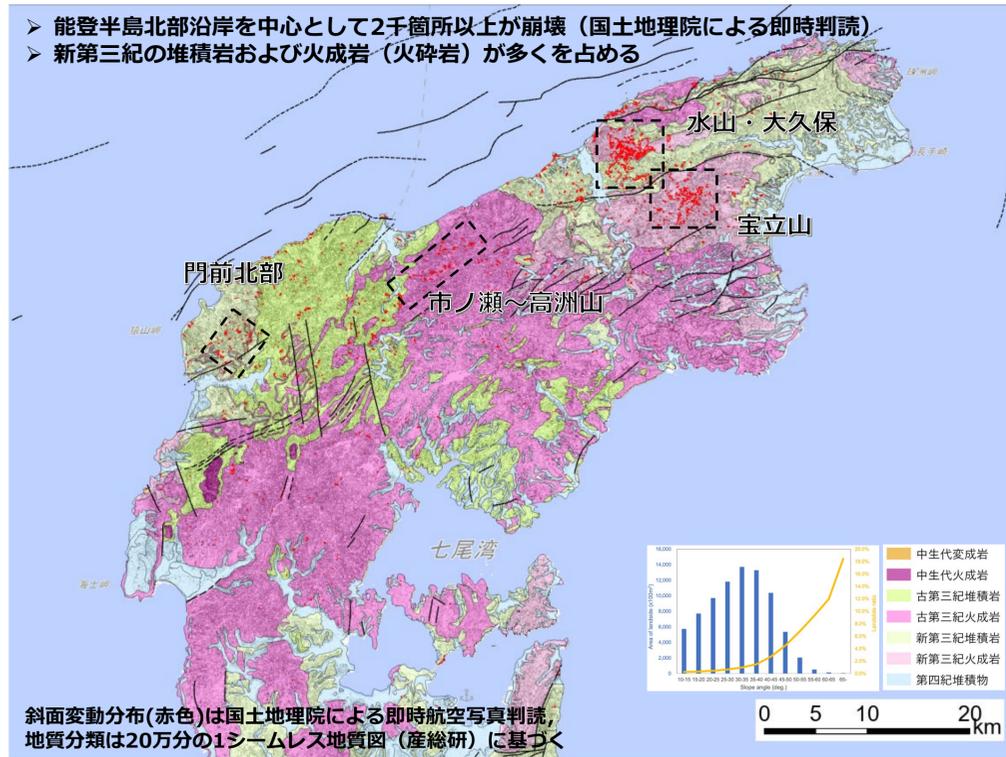
巨大地変災害研究領域 地震津波複合災害研究部門 佐藤 昌人・山田 隆二・八木 浩司・井口 隆

- 能登半島北部沿岸を中心に2,000箇所以上で地すべり・崩壊が発生。
- 新第三紀火砕岩・堆積岩地域に斜面変動が集中。斜面の地質・地盤構造に応じて、発生規模・形態が異なる。
- 既存の地質・地盤情報では、説明・予測が困難な現象も散見され、災害予測の視点から地質情報の再調査・整理が必要。

地すべり、沿岸隆起などの被害状況をドローン撮影した動画をご覧ください→



能登半島地震および9月の豪雨により犠牲となられた方々におくやみを申し上げるとともに、被災されたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。



## 市ノ瀬地すべり

- 堆積岩の構造と斜面向きが揃った流れ盤斜面で大規模な地すべりが発生。同様の堆積岩・流れ盤斜面は能登半島に広く分布する。
- 堆積岩の構造と斜面向きが交差する斜面（受け盤）でも崩壊、落石が多発したが、その規模は比較的小さい。



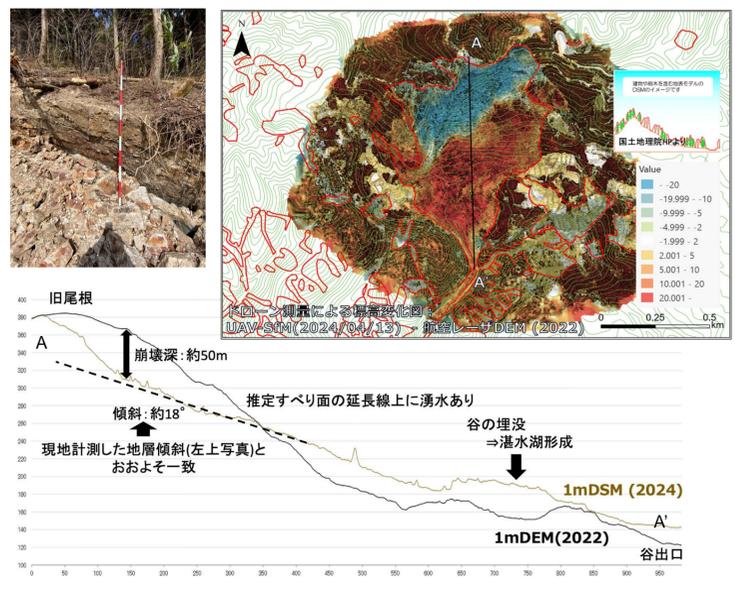
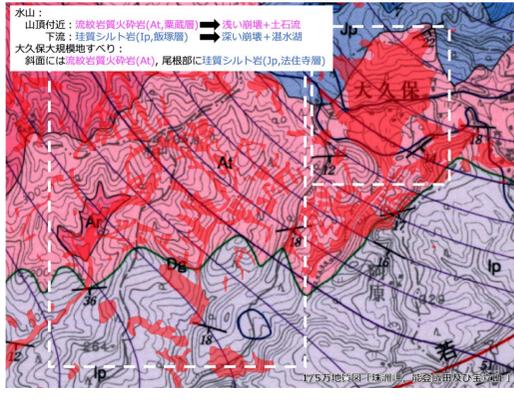
## 門前町北部

- 堆積岩から成る斜面において、深さ5m程度までの浅い崩壊が群発。
- 9月後半の豪雨により中屋トンネル東坑口付近に多量の土砂が流出したが、1月の地震時に既に斜面崩壊が多発していた。地震による崩壊が豪雨により拡大、渓床に蓄積していた大量の土砂とともに一気に流出した可能性がある。



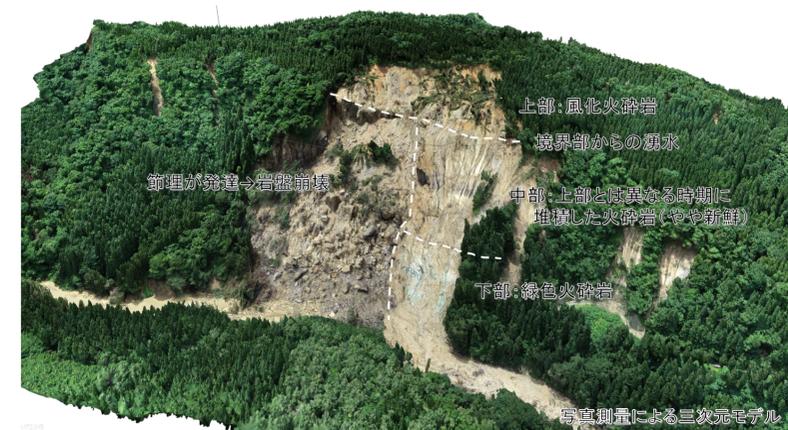
## 水山・大久保地すべり

- 地質・地盤構造の違いにより、斜面崩壊の規模・形態が異なる。（下図）
- 大久保地すべり（能登半島地震による最大規模の地すべり）は、最大深さ50mまで崩壊。シルト岩より深部、または挟在する凝灰岩層から崩壊。



## 宝立山（鈴屋川最上流域）

- 火砕流の繰り返しにより形成した地盤。火砕流ユニット毎の節理（亀裂系）の発達程度、ユニット境界の透水性の違いが、崩壊の規模・形態に影響。
- 既存の地質情報からは判断できない。災害地質の観点から情報整理が必要。



生きる、を支える科学技術



国立研究開発法人 防災科学技術研究所  
〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1 Tel 029-851-1611 Fax 029-851-1622

<https://www.bosai.go.jp>

